

アーティゾン美術館 展覧会（2020/6/23-10/25） 参考資料

1. 館長ごあいさつ 2. 展覧会担当学芸員によるステイトメント

2020年6月23日  
公益財団法人石橋財団  
アーティゾン美術館

1. ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に、謹んでお悔み申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

アーティゾン美術館は、展覧会の開幕を延期し休館しておりましたが、6月23日（火）より再開いたします。開館2期目となるこのたびの展覧会は、当館のコンセプト「創造の体感」を、3つのフロアそれぞれに異なるアプローチで具現化し、美術の多彩な魅力をご紹介します試みです。

6階展示室では、石橋財団コレクションとアーティストの共演「ジャム・セッション」の記念すべき初回として、鴻池朋子を迎えました。芸術の根源的な問い直しを続ける鴻池は、本展の開催にあたり「対話」を重ねて主題を深く掘り下げ、近代がつくりだした美術館の枠組みそのものを探りました。円形の大襖絵を配したインスタレーションを中心とするさまざまな仕掛けを通して、鑑賞者の五感に揺さぶりをかけ、新しい美術館の可能性を提示しています。

5階展示室では、ブリチストン美術館及び石橋財団創設者である石橋正二郎とゆかりの深いヴェネチア・ビエンナーレの日本館にて、国際美術展の一環として昨年開催された展覧会「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」の帰国展を開催します。服部浩之がキュレーションを務め、下道基行（美術家）、安野太郎（作曲家）、石倉敏明（人類学者）、能作文徳（建築家）の4名による映像、音楽、資料などで構成されるインスタレーションは、地球と人の「共存」「共生」をテーマとし、同時代を再考するきっかけを与えてくれます。

4階展示室「石橋財団コレクション選」では、所蔵作品の粋をご覧頂けると共に、特集コーナー展示にて「パウル・クレー」「印象派の女性画家たち」をご紹介します。建て替えのための約5年にわたる長期休館中も、収集活動を続けていました。このたび初公開となる新収蔵作品を核とする2つの特集展示が、時代を切り拓いた芸術家の創造に新たな光を当て、その考察と理解を深める機会となれば幸いです。

最後になりましたが、企画の実現にあたりご尽力を賜りました関係者の皆様に、お礼を申し上げます。

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館  
館長石橋 寛

## 2. 展覧会担当学芸員によるステイトメント

### 【6 階展示室】

ジャム・セッション 石橋財団コレクション×鴻池朋子

鴻池朋子 ちゅうがえり

アーティゾン美術館は、石橋財団コレクションと現代美術家の共演「ジャム・セッション」展を毎年一回の予定で開催することとなりました。その第一回目に鴻池朋子を迎えたのは、アーティゾン美術館の展示室を「ざわつかせる」ことで、これまでにない美術館の姿を見せてくれることを期待したためです。展覧会を開催するにあたり、鴻池は、美術館を構成してきた要素との「対話」によるセッションを重ねました。鴻池のていねいなアプローチによって、アーティゾン美術館という場が、鴻池の生み出す空間に取り込まれていきます。鴻池は、軽やかに「ちゅうがえり」するように新たな視点を提示し、そのなかで、鴻池の作品と19世紀フランス絵画との新たな関係性も生み出されます。

賀川恭子 学芸員

### 【5 階展示室】

第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示帰国展

Cosmo-Eggs | 宇宙の卵

昨年ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館にておこなわれた「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」。この展覧会を日本でも紹介すべく、アーティゾン美術館と国際交流基金との共催で、帰国展を開催することとしました。現代美術の祭典を当館で紹介することに意外性を感じるかもしれませんが、1950、60年代、当館の前身となるブリヂストン美術館では、積極的に国内外の現代美術を扱う展覧会を行っていました。ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展との関わりも古く、1956年自国のパビリオン日本館の建築完成には、ブリヂストン美術館の創設者である石橋正二郎が深く関与しています。帰国展とは何か、キュレーターとアーティストの間でその位置づけを検討することから始まり、再構成したこの展覧会では、ヴェネチアの再現展示に留まらないプロジェクトとしての「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」を感得してもらう内容となっています。

平間理香 学芸担当課長

#### 【4階展示室】

石橋財団コレクション選

特集コーナー展示 | 新収蔵作品特別展示：パウル・クレー

2019年、石橋財団アーティゾン美術館は、20世紀前半を代表するスイス生まれの画家、パウル・クレーの計24点の作品を収蔵しました。当館では、1958年に国内で初めてとされるクレー展を開催しているほか、《島》(1932年)をはじめとする3点のクレー作品を収蔵し、コレクションの重要な要素と位置づけてきました。今回の新収蔵をもって、当館のクレー・コレクションは計27点となり、その画業の重要な局面を跡づけることが可能になったとともに、カンディンスキーやグロスの作品とあわせて、戦間期のドイツ美術の様相をうかがうことができるようになった点に、きわめて大きな意義を見出しています。本展示は計25点の展観により、このコレクションを初めてご紹介するものです。

島本英明 学芸員

特集コーナー展示 | 印象派の女性画家たち

アーティゾン美術館は、その前身であるブリチストン美術館の1952年(昭和27)の開館より、印象派の絵画をコレクションの中心のひとつに据えて参りましたが、このたび開館に向けてこの分野をより充実させるべく、印象派を代表する4人の女性画家たち、ベルト・モリゾ、メアリー・カサット、マリー・ブラックモン、エヴァ・ゴンザレスによる5点の作品をコレクションに迎えることが出来ました。このたびは、これら新収蔵作品を一挙公開すると共に、館蔵の印象派の画家たちによる関連作品、さらには同様に新しく収集された西洋の芸術家の肖像のヴィンテージ写真コレクションから、これら画家たちがかわりのあった芸術家の肖像写真や、画家たちの活躍を伝える文献資料もあわせて展示いたします。

新畑泰秀 学芸課長

#### ■ 本件についてのお問い合わせ先

アーティゾン美術館広報事務局(株式会社OHANA 内) 担当:高橋・細川・妹尾  
Tel: 03-6869-7881 Fax: 03-6869-7801 E-mail: artizon-pr@ohanapr.co.jp  
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-6 りそな九段ビル5F

#### ■ 公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館についてのお問い合わせ先

アーティゾン美術館 広報課 松浦、小川、宮武 E-mail: publicity@artizon.jp  
〒104-0031 東京都中央区京橋1-7-2 Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)